

事業所における自己評価結果 (公表)

公表：令和6年7月

事業所名:日本社会事業大学附属子ども学園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	15	0	・室内トイレを設置している部屋がある。 ・必要に応じて空き教室を活用している。	
	②	職員の配置数は適切である	14	1 (△1)		・必要時、副園長がフォローに入れる体制を確保するとともに、複数担任制により連携を図りやすい体制とすることで、質の高い支援を実践しつつ、職員の業務が適切に分担されるよう努めます。
	③	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	14	1	・使用する子ども達の特性や生活課題に応じた構造化がされている。	・定員30名のコンパクトな集団であること、各グループ複数担任制であることを活かし、職員間の情報伝達についても相互に目配りや気配りが届くよう連携強化に努めていきます。 ・車いすの方への対応など、必要に応じて検討していきたいと思えます。
	④	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	15	0	・常日頃から清潔な学園を目指し、環境整備に努めている。 ・朝、指導後に清掃、消毒を行っている。 ・子ども達の体調や活動内容によって空き部屋も利用して過ごすなど、心地よく過ごせる環境作りを心掛けている。	
	⑤	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	14	0	・業務目標を設定し、半年毎に振り返りを行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
業務改善	⑥	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・第三者評価や児童発達支援ガイドライン、各行事後のアンケート等の意見をもとに、より良い支援に向けた改善を行っている。 ・行事ごとにアンケートを実施し、保護者のご意見をもとに改善できるようにしている。 	
	⑦	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	14	0		
	⑧	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・3年に1回第三者による外部評価を実施し、業務改善につなげている。 ・今年度は3年に一度の第三者評価を受審する。 	
	⑨	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・外部研修に参加する機会もある。 ・指導時間中の研修参加は難しいが、それ以外の時間で動画視聴したり、回覧の資料を読んだりしている。 ・感染症対応、災害対策、虐待防止に向けた研修を実施している。 	
適切な支援の提供	⑩	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	16	0	<ul style="list-style-type: none"> ・前期、後期に分けてアセスメントの期間を十分に確保して作成している。 ・作成前に保護者にアンケートを実施し、ご希望や目標を考慮した上でその都度計画を作成している。 	
	⑪	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	14	0	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年発達検査を行っている。 	

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
⑫	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	15	0	・アセスメントを十分に行いながら、子ども達一人ひとりの現状を把握した上で、必要な支援を行うようにしている。	
⑬	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	14	0		
⑭	活動プログラムの立案をチームで行っている	13	0	・話し合いの場を設けながら行っている。	
⑮	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	13	0	・見通しが持てるようある程度固定している部分はあるつつも、その時々状況に応じて工夫している。 ・季節感を大事にしている。 ・見通しが持てるようにあえてプログラムを固定する場合もある。	
⑯	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	14	0	・朝の個別指導の時間も活用している。	
⑰	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	15	1	・朝のミーティングを行っている。 ・適宜、話し合いの場を設けながら支援に取り組んでいる。 ・朝会や朝の準備の際にグループ内だけではなく全体で、園庭や遊戯室遊びの時間帯について等、安全管理できるように配慮しながら支援内容について調整している。	

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
⑱	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	15	1	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度、職員間で打ち合わせをしながら次の日以降の支援に活かすことができている。 ・職員間で1日の振り返りをして、日々の支援内容に活かしている。 ・毎日振り返りを行い、特記すべきことは記録を残している。 ・日々の支援記録を作成する過程で職員間で必ず話し合いの時間を設け、情報の共有や明日以降の支援の打ち合わせをしている。 	
⑲	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・指導後、支援記録を作成している。 	
⑳	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	14	1	<ul style="list-style-type: none"> ・その都度、一人ひとりの課題を見直し、支援方法や支援内容を臨機応変に対応できるようにしている。 	
㉑	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・状況に精通した者が参画している。 	
㉒	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	13	0	<ul style="list-style-type: none"> ・保健師さんと情報共有する機会を設けている。(年度の初めは定例としており、随時必要に応じて連絡することもある) 	
㉓	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	6	0	<ul style="list-style-type: none"> ・(医療的ケア児や重症心身障害児に該当するお子さんはいませんが)看護師さんに相談したり、検診の機会に連携できている。 	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関 や保護者との 連携	②4	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	0	・(医療的ケア児や重症心身障害児に該当するお子さんはいませんが)怪我対応チャートを作成し、主治医の連絡先が一目でわかるようになっている。 ・必要のあるお子さんには緊急時のチャートを作成している。	
	②5	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	0	・通っている保育所等へ行ったり、実際に子ども学園に来てもらったりしながら、情報共有できようとしている。 ・年度替わりに他の児童発達支援センターに転園する子がいた為、保護者に調整役をもらいつつ、日程を決め、新たな担任に支援内容等の情報を電話で共有した。	
	②6	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	14	0	・就学支援シートの作成や引き継ぎ(対面、電話、書面等)を丁寧に行っている。	
	②7	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	3	・他の相談支援事業所の職員がモニタリング等で来園する際は子どもの様子を観察するだけでなく職員間で話し合いの時間も設けるようしている。	・参加希望の研修や必要性の高い研修につきましては日程や職員配置を調整し、可能な限り対応できるよう努めます。
	②8	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	1	13	・ごきょうだいの関わりはあるが、ご家族のプライバシーや学園に通うお子さんの特性への配慮から難しい現状もある。	
②9	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	12	0			

チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
③⑩	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理解を 持っている	16	0	<ul style="list-style-type: none"> ・登園や降園時に話したり、連絡帳・面談等を通して、お子さんについての情報共有・共通理解に努めている。 ・登園時にご家庭での様子や体調をお聞きし、降園時には学園での様子をお伝えしている。 ・朝、帰りの受け渡し時の話だけでは不十分な場合、連絡帳や面談を活用しながら情報を共有するよう心掛けている。 	
③⑪	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者 に対して家族支援プログラム（ペアレント・ トレーニング等）の支援を行っている	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・担任もペアレントトレーニングの様子を共有し、保護者支援を行っている。 ・主に新入園児の保護者を対象にしてペアトレを行い、担任も情報を共有させてもらうことで一緒に支援方法を考える機会にもなっている。 	
③⑫	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明 を行っている	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・新規契約は時間をかけて丁寧な説明を行っている。 	
③⑬	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の 提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、 これに基づき作成された「児童発達支援計画」 を示しながら支援内容の説明を行い、保護者 から児童発達支援計画の同意を得ている	15	0		
③⑭	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対 する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を 行っている	15	0	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳、面談等を通じて行っている。 	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	③⑤	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	17	0		
	③⑥	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	15	0	・家庭訪問、個別相談、連絡帳等で対応できるようにしている。	
	③⑦	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	16	0		
	③⑧	個人情報の取扱いに十分注意している	16	0	・個人情報は鍵のかかる場所で保管している。 ・実習生等に対してもその都度個人情報の取り扱いについて説明したり、外部に情報が漏れないように注意している。	
	③⑨	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	16	0	・それぞれの性格や特性等に細心の注意をしながらコミュニケーションを図るようにしている。 ・言葉での指示が入りにくいお子さんに対して、普段学園で活用している絵カード等を保護者の方にお伝えする等、子ども学園での支援内容を共有できるようにしている。	
	④⑩	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	5	7		・ご家族のプライバシーやお子さんの特性を考慮し、お招きする方は本園の関係者の皆様とさせていただいておりますが、コロナ禍で縮小したり中止していたりしていた内容や、人数制限等に関しては緩和する方向で計画しています。
	④⑪	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	17 (△1)	0	・適宜、更新しながら策定、活用している。 ・毎月避難訓練を行い、年2回保護者の方にも協力を得て、引き渡し訓練を行っている。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	④②	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	17	0 (△1)	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、避難訓練を実施し、子どもの様子や対応方法等の想定を行うようにしている。 地震や火災、水害等、様々な災害を想定した訓練を毎月行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 勤務形態が一律ではない為、特定の日時に職員全員で訓練を実施することは困難ですが、資料の配布や伝達、未体験の職員の参加を優先するなどの方法で、必要な訓練を行うことができるよう努めます。
	④③	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	17	0	<ul style="list-style-type: none"> 看護師と連携して確認を行っている。 お薬プリントを提出してもらっている。 	
	④④	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	17	0	<ul style="list-style-type: none"> 指示書を共有し、間違いの起こらないよう対応している。 	
	④⑤	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	15	1	<ul style="list-style-type: none"> 事例を通して、再発防止や今後の支援に向けて活用している。 ヒヤリハットについては日々の記録、指導看護日誌に記録を残すと共に、朝会や職員会議等を通して情報共有できるように安全管理に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 他グループで生じたヒヤリハット事例についても朝会や職員会議等を通じて職員間で周知できるよう、改めて周知いたします。
	④⑥	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	16	0		
	④⑦	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	16	0	<ul style="list-style-type: none"> (食事での)食具を正しく持つ練習で、指を固定する等、細かな点についてもその都度子どもだけでなく、保護者の方にも事前に意図等を説明し、了承を得た上で実施している。 	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。